



平敷屋 の文化財

平敷屋エイサー

平敷屋のエイサーは、旧暦の7月15・16日に祖霊を供養する盆踊りです。平敷屋エイサーの起源は定かでないが、1903年(明治36年)頃までは、平敷屋独自のごく素朴なものであったといわれています。

現在の念仏形式の加わった盆踊りは1904年(明治37年)県内で評判であった名護エイサーを当時の青年会長(兼堅助志氏)が名護に志向して習い、会員に教えたのが始まりで、それを基に独自の型を確立しました。平敷屋エイサーは、ジューター(地謡)、ハントゥー(酒かめ)持ち、太鼓打ち、踊り手、中わち(世話役)で構成され、白と黒で統一された衣装(紺地)を身にまとい、太鼓打ちは、裸足で踊るなどエイサーの古式をとどめた独特なものです。



民俗文化財・その他文化財

- 1 西の御嶽
- 2 ヒージャーガマ
- 3 前の御嶽
- 4 平敷屋朝敏屋敷跡
- 5 シリー御嶽
- 6 ヒッチャマー
- 7 勝連間切番所跡
- 8 カンジャーヤー跡
- 9 とうの御嶽
- 10 平敷屋タキノー(町指定)
- 11 製糖工場跡
- 12 ヒータティムイ(火立森)
- 13 東の御嶽
- 14 按司墓

遺跡

- 1 平敷屋遠見番貝塚
- 2 平敷屋原遺跡
- 3 平敷屋古島遺跡
- 4 平敷屋トウバル遺跡
- 5 平敷屋遺物包含地

井泉

- 1 チブヌカー
- 2 リードゥガー
- 3 ノロガー
- 4 上ヌカー
- 5 下ヌカー
- 6 アガリガー
- 7 イリカー
- 8 ヒラカー
- 9 浜川
- 10 ジンナカー

12 ヒータティムイ(火立森)

ヒータティムイは、字平敷屋土地改良区の西側、標高約66mの小山です。昔の情報伝達手段である、狼煙を上げた場所といわれていますが、よくわかっていません。



6 ヒッチャマー

ヒッチャマーは、平敷屋村の氏神で、昔の村屋跡にあります。ほとんどの村行事をはじめ、平敷屋エイサーやウスデークもここで奉納してから始められています。また、戦前は毎年、旧6月14・24日に「タコ綱」挽きもここで行われていました。

11 製糖工場跡(サーターヤ跡)

平敷屋の製糖工場は、1940年(昭和15年)十一組の旧サーターヤ組が合併して新設されたものです。ところが、わずか4ヶ年操業しただけで、去る大戦により破壊されました。現在は、レンガ造りの煙突だけが残り、当時を物語る弾痕も残っています。県内でも現存するものが少なく、戦跡としても貴重な文化財です。



3 ノロガー

ノロガーは、火立森の南西側、粘土質の崖中腹、大きな赤木の根元にある小さな井泉です。村の発展を祈願する拝所になっています。

10 平敷屋タキノー



1 西の御嶽

西の御嶽は、字平敷屋の南西約500mの離れた山中にあります。この神は女神で、男性は昔から立ち入り禁止となっています。村の安全繁栄を願う拝所で、現在は軍用地内になっています。



3 平敷屋古島遺跡

勝連半島の先にあたる丘陵部分の平敷屋集落内に分布しています。戦後、米軍により収容され、返還と同時に当該地に住宅建築が増え、発掘調査が実施されました。その結果、この丘陵台地は、沖縄貝塚時代、グスク時代、近世と連綿と集落が形成されたことがわかりました。調査で注目されたのは、城以外の集落にも鎧や鉄鍔などの武器が存在していることが明らかになったことです。

4 平敷屋トウバル遺跡

勝連半島先端の南側の海岸砂丘(標高約6m)に位置する、沖縄貝塚時代前期・後期の遺跡です。米軍の倉庫建設に伴い、発掘調査が実施されました。その結果、文化層は二枚確認され、上層からは、奄美や九州地域の遺物が出土し、建物跡の柱が多数検出されました。また下層は、平安名貝塚の時代に近い約3000年前の貝塚で、同じ時代で丘と砂丘地という立地の異なることで注目される遺跡です。

